









特開昭63-68537(9)

の収率に相当した。このものは更に精製した。溶剤を伊通してはでん炭化カリウムを除去した。溶剤にヘキドロキサン0.05g添加してからロータリーエバポレーターにより70℃、5~1.0mmHg(0.67~1.33MPa)で蒸留乾燥した。

紫外分析ではフェノール性ヒドロキシ基の酸化率は99.9%であることを示した。またIR分析により酸素がシクロペンタジエニル基(0-タレン-ル)のビス(ビニルベンジル)エーテルであることを同定した。生成物を実施例と同様にキャリングした。結果を第1表に示す。

比較テストB

アメリカ特許4,116,936記載の溶液を用いて実施例2の生成物をつくった。まず、シクロペンタジエニル-ビス(0-タレン-ル)65g(0.187mol)およびビニルベンジルクロライド(m-p-異性体の80/40重量%混合物)71g(0.467mol)をアセトン200mlに溶解し、9(0.467mol)をアセトン200mlに溶解した。溶液を加熱還流メタノール11.5mlに溶解した。86%水酸化カリウム3.6gの溶液を30mlにわたって添加した。この混合物を更に1hr還流した。これに更にアセトン200mlを添加還流

した。この充填モードを先ず120~130℃で1hr、ついで170~185℃で2hr、最後は210~220℃で2時間加熱した。この生成物をサンプル(2)とした。結果をおよび製造フローチャートを第2表に示す。

第2表

| 誘電率周波数,      | サンプル(1) | サンプル(2) |
|--------------|---------|---------|
| 1000Hz       | 2692    | 2710    |
| 10000Hz      | 2683    | 2701    |
| 100000Hz     | 2664    | 2682    |
| 製造フローチャート-図1 |         |         |
| 1000Hz       | 0.00192 | 0.00166 |
| 10000Hz      | 0.00188 | 0.00184 |
| 100000Hz     | 0.00241 | 0.00229 |

(実施例4)

実施例1と同じ方法により、メチレンビス-(2,6-ジメチルフェノール)1.51g(0.2mol)とビニルベンゼンクロライド6.4g(0.42mol)とを水酸化ナトリウム1.8g(0.44mol)およびメチル-カルミルアルブヒド15.0gの存在

(実施例5)

シクロペンタジエニルビス-(2,6-ジメチルフェノール)の代わりに、3,3',5,5'-タトラメチル-2,2',6,6'-タトラプロモビスフェノール(1),3,3',5,5'-タトラメチル-2,2',6-トリプロモビスフェノール(2),3,3',5,5'-タトラメチル-2,6-ジプロモビスフェノール(3)を用いたことを除いて実施例1の操作を繰返した。この相当する生成物は、IR分析によりメチルフェノール性ヒドロキシ基を含んでいなかった。この生成物を実施例1のようにしてキャリングし、その熱安定性をアメリカ特許4,116,936記載のタトラプロモビスフェノールのビス(ビニルベンジル)エーテルと比較した。5重量%ロスとなるために要する温度および空気中250℃で250hr間の試験の重量ロスを第4表に示す。

第3表

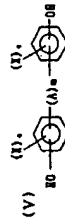
| キャリング前                    | 540     |
|---------------------------|---------|
| ゲル時間17.3℃, sec            | 540     |
| 開始, °C                    | 180     |
| 最高, °C                    | 220~230 |
| キャリング後                    |         |
| 熱安定性                      |         |
| 5重量%ロスに要する温度, °C          | 375     |
| 空気中, 25℃, 250hr試験の重量ロス, % | 3.44    |
| 100℃の沸とう水100hr後の収分量, %    | 0.4     |

| 比較テストA  | 比較テストB  | 比較テストC  | 比較テストD  | 比較テストE  | 比較テストF  | 比較テストG  | 比較テストH  | 比較テストI  | 比較テストJ  | 比較テストK  | 比較テストL  | 比較テストM  | 比較テストN  | 比較テストO  | 比較テストP  | 比較テストQ  | 比較テストR  | 比較テストS  | 比較テストT  | 比較テストU  | 比較テストV  | 比較テストW  | 比較テストX  | 比較テストY  | 比較テストZ  |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 | 300-360 |
| 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     | 170     |
| 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     | 220     |
| 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     | 415     |
| 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     | 186     |
| 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 | 360-420 |



該系物質とを反応させ、ついで(B) 活性性アロ  
トン性溶剤の存在下、生成物のアルカリ金属フェ  
ノキシドとビニルベンジルハライドとを反応させ、  
その後そこから95%を超える芳香族ヒドロキシ  
ル基がビニルベンジルエーテル基へ転化された物  
質を回収することから成ることを特徴とする多  
量のビニルベンジルエーテル基を含有する物質の  
製造法。

7. (a) 該多量の芳香族ヒドロキシル基を含有  
する物質が、つぎに一般式(V)、(VI)あるいは(VII)  
の式で表わされる。



(VII) 
$$\text{HO}-(\text{Ar})_n-\text{C}_6\text{H}_4-\text{OH}$$
  
(式中、Arは、1~25個の炭素原子を有する  
-p-キシレン、またはこれらの組合せ；

(a) 該ビニルベンジルハライドが、ビニルベン  
ジルクロライドあるいはビニルベンジルプロマイ  
ド；かつ

(d) 該活性性アロトン性溶剤が、ジメチルホル  
ムアミド、ジメチルアセトアミド、ジメチルスル  
ホキシド、N-メチルピロリジン、ジオキサン、  
アセトニトリル、テトラヒドロフラン、エチレン  
グリコールジメチルエーテル、1,2-ジメトキ  
シアロバン、テトラメチレンスルホン、ヘキサメ  
チルホスホスアミド、メチルエチルケトン、メチ  
ルイソブチルケトン、アセトン、あるいはこれら  
の混合物；

である。特許請求の範囲第5項あるいは第6項記  
述の方法。  
9. (a) 該多量の芳香族ヒドロキシル基を含有  
する物質が、つぎに一般式(V)、(VI)あるいは(VII)  
の式で表わされる。

8. (a) 該多量の芳香族ヒドロキシル基を含有  
する物質が、つぎに一般式(V)、(VI)あるいは(VII)  
の式で表わされる。

により表わされる物質；

(b) 該系物質が、4-プロモメチル-3,5-  
ジプロモ-2,6-ジメチルフェノール、2,4-  
ビス(クロロメチル)-1,2-ビス(プロモメチル)ベン  
ゼン、1,3-ビス(プロモメチル)ベンゼン、1,2-ビ  
ス(クロロメチル)ベンゼン、1,3-ビス(クロロメチル)ベ  
ンゼン、2,4-ビス(クロロメチル)メシレン、  
4,6-ビス(クロロメチル)-p-キシレン、  
2,5-ビス(クロロメチル)-p-キシレン、また  
はこれらの組合せ；

(e) 該ビニルベンジルハライドが、ビニルベン  
ジルクロライド、あるいはビニルベンジルプロマイ  
ド；かつ

(d) 該活性性アロトン性溶剤が、ジメチルホル  
ムアミド、ジメチルアセトアミド、ジメチルスル  
ホキシド、N-メチルピロリジン、ジオキサン、  
アセトニトリル、テトラヒドロフラン、エチレン  
グリコールジメチルエーテル、1,2-ジメトキ

シアロバン、テトラメチレンスルホン、ヘキサメ  
チルホスホスアミド、メチルエチルケトン、メチ  
ルイソブチルケトン、アセトン、あるいはこれら  
の混合物；

である。特許請求の範囲第5項あるいは第6項記  
述の方法。  
9. (a) 該多量の芳香族ヒドロキシル基を含有  
する物質が、つぎに一般式(V)、(VI)あるいは(VII)  
の式で表わされる。

(b) 該系物質が、4-プロモメチル-3,5-  
ジプロモ-2,6-ジメチルフェノール、2,4-  
ビス(クロロメチル)-1,2-ビス(プロモメチル)ベン  
ゼン、1,3-ビス(プロモメチル)ベンゼン、1,2-ビ  
ス(クロロメチル)ベンゼン、1,3-ビス(クロロメチル)ベ  
ンゼン、2,4-ビス(クロロメチル)メシレン、  
4,6-ビス(クロロメチル)-p-キシレン、  
2,5-ビス(クロロメチル)-p-キシレン、またはこれら  
の組合せ；

(e) 該ビニルベンジルハライドが、ビニルベン  
ジルクロライド、あるいはビニルベンジルプロマイ  
ド；かつ

(d) 該活性性アロトン性溶剤が、ジメチルホル  
ムアミド、ジメチルアセトアミド、ジメチルスル  
ホキシド、N-メチルピロリジン、ジオキサン、  
アセトニトリル、テトラヒドロフラン、エチレン  
グリコールジメチルエーテル、1,2-ジメトキ

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

一段工程加熱サイクルから成ることを特徴とする

ア組成物の製造法。

112. 特許請求の範囲第1〜3項のうちのいづれが1項記載のモノマーあるいはオリゴマーから成るキユア可能な組成物。

13. **ビスマレンイニド、ポリフェノール**  
 のポリシアネート、ポリフェノールのポリアロバ  
 ギルエーテル、エポキシドおよびこれらの混合  
 物から成る群から選ばれるキュア可能な樹脂から  
 更に成る特許請求の範囲第12項によるキュア可  
 能な組成物。』

ジルクロライドあるいはビルベンジルプロマイ  
ド：かつ、

(d) 該酸性プロトン性樹脂が、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ジメチルスルホキシド、N-メチルピロリジノ、ジオキサン、アセトニトリル、テトラヒドロフラン、エチレングリコール、ジメチルエーテル、1,2-ジメトキシレオロパン、テトラメチレンスルホン、ヘキサメチルホスホアミド、メチルエチルケトン、メチルイソブチルケトン、アセトン、あるいはこれらとの混合液；

である、特許請求の範囲第5項あるいは第6項記載の方法。

10. 反応が、(1)  $-30^{\circ}\text{C}$  から  $100^{\circ}\text{C}$  の温度で、 $0.5\sim 40$ 時間、(2)  $0\sim 80^{\circ}\text{C}$  の温度で  $0.5\sim 15$ 時間、あるいは(3)  $15\sim 60^{\circ}\text{C}$  の温度で  $0.5\sim 8$ 時間、実施される特許請求の範囲第5項のうちのいずれか1項記載の方法。

11. 第1工区が60～130℃で実施され、かつ第2工区が175～260℃で実施される2

物 正 理 館

平建日年8月26日

廣東省銀行

昭和62年統計図表221183号

2. 焼酎の名称

### 3. 補正をする者

事件の關係 特許出願人

陳 誠 先生 (1900—1965)

人 員

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号

新大学町ビル 206区

電話 (3270) 6841 ~ 6

氏名 (2770) 弁端士 備 録 姓

第 6 卷 5

明后書の【特許請求の範囲】と【発明の詳細な説明】の欄

### 8. 補正の内容

の 歴 史

[illegible]



